

# 南鳥島付近にレアアース

電気自動車などのハイテク製品の部品に必要な鉱物資源レアアース(希土類)が、日本の排他的経済水域(EEZ)である小笠原諸島・南鳥島周辺の海底に多く存在することを、東京大などの研究チームが発見した。同チームは昨年、太平洋の公海で広範囲に分布することを突き止めていたが、日本のEEZで大量に確認されたのは初めて。埋蔵量は国内需要の200年分以上と推定される。

東京大の加藤泰浩教授(地球資源学)らは、南鳥島周辺の深さ約5600〜5800mの海底4カ所で、掘削によって得られた泥を採取し、分析した。

その結果、日本のEEZにあたる南鳥島の南西約310mの海底で、厚さ30分の泥に最高1700ppmという高濃度のレアアースが含まれていた。同島の北約200mのEEZ内やEEZ外の1カ所でも平均1千ppmを超えていた。レアアースの中でも重要な元素は、陸上の鉱床より3〜4倍多く含まれていた。

こうしたことから、この海域には1千平方mの広範囲にレアアースの泥の鉱床がある

## EEZ内 国内需要200年分

と推定され、埋蔵量は680万トに上ると推定されるという。2010年現在、日本のレアアースの国内需要は約2万7千ト。

代替品がほとんどないレアアースをめぐっては、生産量の約9割を占める中国の輸出規制に対し、日本や米国、欧州連合(EU)が世界貿易機関(WTO)に提訴するなど、外交問題となっている。

深海からの採掘は技術開発やコストが課題となるが、枝野幸男・経済産業相は29日の閣議後の記者会見で「経産省としても加藤教授らと連携し、採掘可能量など海底調査を進めていく」と話している。

(森治文)

